

サークル名	行動抑制を考える会	発表者	中井晋平
		リーダー	中井晋平
部署	2階病棟・ICU	サブリーダー	吉川ひろみ
活動期間	開始：令和2年2月 終了：令和3年6月	メンバー	徳政美穂 吉川ひろみ
	1回あたりの会合時間：30分		山田里恵 三上清香
所属長/推進メンバー	川本 秀子	所見欄	
レビュー担当者	永澤 昌 関 留美子, 野田宏美		

テーマ

救急病棟における行動抑制見直し行動の習慣化

テーマ選定理由

行動抑制をアセスメントするための取り組みとして、行動抑制に関する記録の習慣化と定期的な抑制カンファレンスの導入を図ることとした。

現状把握

現状把握としてアンケート調査を行った。その結果、

- ・行動抑制について記録ができていないこと。
- ・定期的な話し合いが行われていないこと。
- ・抑制が当たり前になっていること。
- ・多職種と情報共有できていないこと。

がわかった。

これらから十分な抑制アセスメントが行われていない現状が明らかとなった。

目標設定

現状把握にて得られた理由を基に以下の目標を設定した。

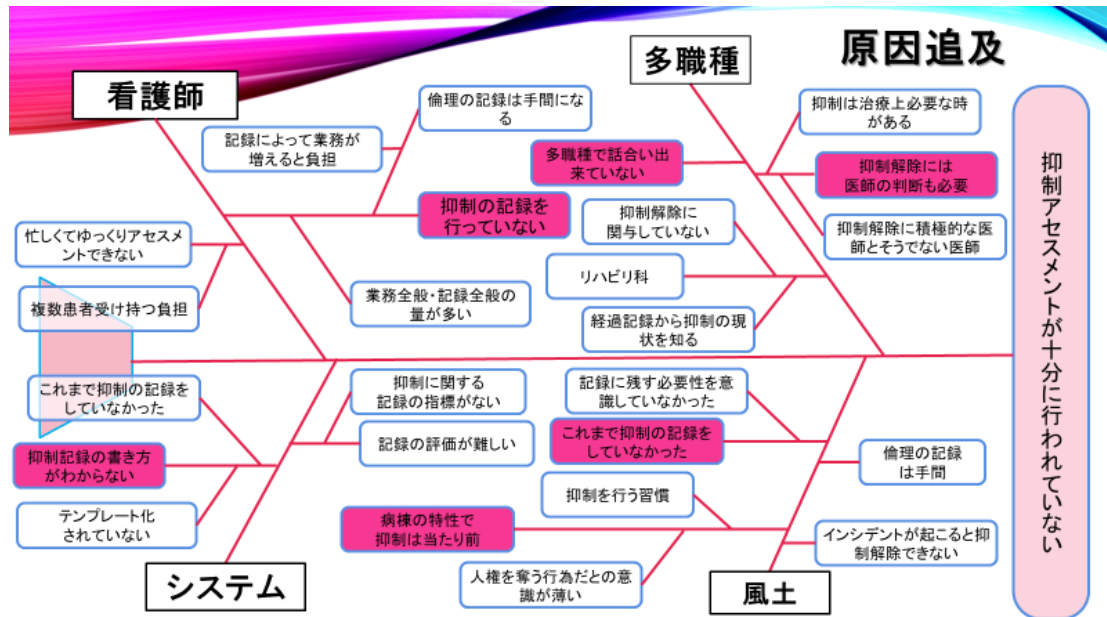
- ① 行動抑制に関するアセスメント記録が行える、を対象者の記載率100%にする。
- ② 抑制カンファレンスを開催し複数で検討する機会を作る、を開催率100%にする。

要因の解析

十分な抑制アセスメントが行われなかったのはなぜか、フィッシュボーンで解析した結果、次の6つが重要要因と考えた。

- ① 抑制の記録を行っていない。
- ② 抑制記録の書き方がわからない。
- ③ 多職種で話し合い出来ていない。
- ④ 抑制解除には医師の判断も必要。
- ⑤ これまで抑制の記録をしてこなかった。
- ⑥ 抑制は当たりの風土があった。

図1 要因の解析



対策立案

系統図、マトリックス図で重要要因について対策を検討し、評価の高いものを採用することにした結果、次の4つが採用された。

- ① 記録を残すように看護指示を入力する。
- ② アセスメント記録の例文を提示する。
- ③ カンファレンスを開催する。
- ④ 記録の負担を減らすためテンプレートの導入を行う。

図2 対策立案



図3 対策実施

何を	なぜ	誰が	いつ	どこで	どうする
アセスメント記録	確実に残す	受け持ち	5月から	病棟	看護指示に入力
行動抑制の判断	話し合う機会を作る	看護師全員	3月から 毎週金曜日	詰所	カンファレンス開催
アセスメント記録	書きやすく読みやすく	TQMメンバー	8月	病棟	例文作成
アセスメント記録	統一された書式にする	TQMメンバー	12月	病棟	テンプレート作成

対策実施

対策1 記録を残すように看護指示に入力する。

抑制アセスメントを実施しその内容を確実に記録へ残すため、対象となる患者については看護指示に入力し、日々の担当者がチェックするようにした。看護指示への入力は入院時の受け持ち看護師が行った。

対策2 アセスメント記録の例文を提示する。

具体的にどのような記録をすればよいかわからないとの意見があったため、TQM担当者が例文を作成し、記録のポイントを文章で提示した。

対策3 カンファレンスを開催する。

毎週金曜日の13時から抑制カンファレンスを定期的実施することとした。司会は日々の病棟リーダーが担当。

対策4 記録の負担を減らすためテンプレートの導入を行う。

自由記載の記録からテンプレートへの記録に変更することで、記録の負担を減らすことを狙った。

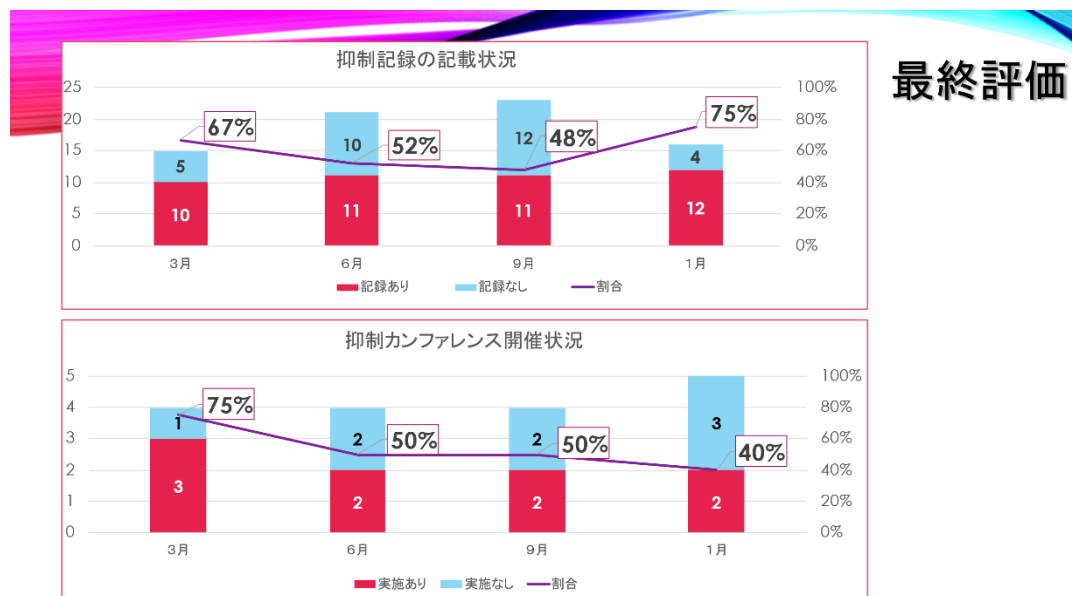
図4 抑制アセスメントテンプレート

The screenshot shows a medical software interface for '抑制アセスメント' (Repression Assessment). The interface includes a patient information header with fields for ID, name, age, sex, height, and weight. Below the header is a navigation menu with various options like 'アセスメント', '看護記録', and '検査結果'. The main form area is titled '抑制アセスメント' and contains several sections:

- 抑制の使用目的 (Purpose of Repression):** Includes checkboxes for '転倒防止' (Fall prevention), '自己除去予防' (Prevention of self-removal), '安静度の指示' (Calmness instruction), and 'その他' (Others).
- 抑制の種類 (Type of Repression):** Includes checkboxes for 'ミトン' (Mittens), '抑制帯' (Restraint belt), '体幹抑制帯' (Trunk restraint belt), 'てんとう虫' (Tentacles), 'ウーゴくん' (Ugokun), 'コルマット' (Cormat), '安定ベルト' (Stability belt), and '緩衝マット(4点構)' (Shock-absorbing mat (4-point structure)).
- 患者の行動 (Patient's Behavior):** Includes checkboxes for 'チューブを握りしめる・引っ張る' (Gripping/pulling tubes), 'しきりに起き上がるようにしている' (Getting up frequently), '興奮・イライラ' (Excitement/irritation), '夜間せん妄' (Nocturnal delirium), '同じ言葉をくりかえし行う' (Repeating the same words), '繰り返し説明が必要' (Need for repeated explanation), and '多弁など' (Talkative, etc.).
- 看護ケア (Nursing Care):** Includes dropdown menus for '転倒防止' (Fall prevention), 'その他' (Others), '自己除去' (Self-removal), '安静度' (Calmness), and 'その他' (Others).
- 申し送り事項 (Handover items):** A text area for notes.
- 行動抑制同意書 (Repression Consent Form):** Includes radio buttons for 'あり' (Yes) and 'なし' (No).

At the bottom of the form are buttons for 'クリア' (Clear), 'キャンセル' (Cancel), and 'カルテに展開' (Expand to chart).

図5 抑制記録の記載と抑制カンファレンス開催の状況



効果確認

有形効果

- ① 行動抑制アセスメント記録の記載率は 67%から 75%に増加したが、目標の 100%には達しなかった。
- ② 抑制カンファレンス開催率は 75%から 40%に減少しており、目標の 100%には達しなかった。

無形効果

- ① 行動抑制の必要性を考えるようになった
- ② 行動抑制について意識が変わった
- ③ ある程度カンファレンスに役立った
- ④ 行動抑制の記録は必要だと感じる、という効果が得られた。

定着化

TQM 活動から倫理グループへ記録監査の役割移行を依頼する。

カンファレンスについては、現在日々のリーダーが司会を担い定期的に取り組んでいる。

まとめと課題

抑制アセスメント記録についてはテンプレートを導入することで記載率は向上することができた。しかし、カンファレンス開催状況は改善していない。決められた時間にカンファレンスを行うことが困難であることが多いため、全員で集まらなくても空いた時間に複数で話し合ったり情報を共有したりできるシステムへの変更を検討していく必要がある。